

86

## 統合イノベーション戦略

問 86 2020年7月17日に閣議決定された統合イノベーション戦略に関する次の記述のうち、最も妥当なものはどれか。

↓チェック欄

- 1 各国の覇権争いの中核が仮想通貨技術に大きくシフトし、各国企業・政府間で技術覇権争いが激化しているほか、海外大手ITプラットフォームの台頭やそれに対する各国政府の規制に向けた動き、踊り場に差し掛かったベンチャー投資環境、SDGsを意識した企業行動の変化など、大きな情勢の変化があった。
- 2 新型コロナウイルス感染症により世界が直面する難局を乗り越えるとともに、新たな日常（ニュー・ノーマル）を確立するためには、デジタルイノベーションを大きく進めるとともに、規制や商習慣、消費者行動を見直し、持続的かつ強靱で包括的な社会への構造変革を進める必要があり、“Society 5.0”の理念が改めて重要となっている。
- 3 更なるスタートアップの創出・成長を加速するため、世界に伍するエコシステム形成の拠点として2020年7月に選定したスタートアップ・エコシステム拠点都市に対し、大学におけるスタートアップ創出の加速やアクセラレータ機能、ギャップファンディングの強化などの官民による集中支援を行う。
- 4 世界に比肩するレベルの研究開発を行う大学等の共用施設やデータ連携基盤の整備、若手人材育成等を推進するため、世界に伍する規模の奨学金を大学等の間で連携して創設し、その運用益を活用するなどにより、世界レベルの研究基盤を構築するための仕組みを実現する。
- 5 AI、バイオ、量子等の先端技術分野の強化、SDGsの達成、パリ協定の長期目標の達成、資源・環境制約の克服、安全・安心社会や健康長寿社会の実現といった社会課題の解決に、物質、材料、デバイスといった「サブスタンス」の革新が決定的に重要となっている。

## 解答・解説

- 1 誤り。「仮想通貨技術」ではなく「イノベーション」である。
- 2 誤り。「デジタルイゼーション」ではなく「デジタル・トランスフォーメーション (DX)」である。なお、デジタルイゼーションとは、デジタル化のこと。デジタル・トランスフォーメーション (DX) については、本書の時事用語集 1 (→ p.50) を参照のこと。
- 3 妥当である。スタートアップ企業が成長しやすい環境を整える「グローバル拠点都市」に東京、愛知、京阪神、福岡の4都市圏が選定され、対象地域の企業には補助金を優先的に振り分けることになった。なお、アクセラレータとは、「アクセル、加速装置、促進剤」の意味を持つ英語。ギャップファンディングとは、開発コストである「総事業費 (支出)」と完成後の収入額である「推定市場価格 (エンドバリュー)」との差額を「ギャップファンド」として補助する方式をいう。
- 4 誤り。「奨学金」ではなく「ファンド」である。ほかに、博士後期課程学生の処遇の向上として奨学金拡充などの支援の充実を促進するとした。
- 5 誤り。「サブスタンス」ではなく「マテリアル」である。なお、マテリアル (material) とは、素材、材料を意味し、サブスタンス (substance) とは、(化学的/物理的性質を示す) 物質を指す言葉である。

## Topics

## ● 統合イノベーション戦略 2020

先端科学技術分野に関する政府全体の指針である**統合イノベーション戦略 2020**は、新型コロナウイルス感染症の拡大や大規模災害の発生、イノベーションをめぐる覇権争いの激化など、国内外の状況が著しく変化したこと、また、第 201 回国会において、人文・社会科学やイノベーションの概念を追加する改正科学技術基本法が成立したことを踏まえ、重点的に取り組むべき施策として策定された。